

中、曰、廿年来現在の處へおびん屋を営み居る  
 て相當に繁榮昌し社會主義者にして困難する  
 ものみは或は金銭を喫へ或は食物を喰ひ居る  
 者あり彼の元ル飲食に盡し居るは孰多き人  
 物ありて一日彼の元ル單に座するの廿五子  
 ても幾多の事業を觀察を乞ひ得るあり又昨  
 年より老人を尊重すべき當を乞ひて現に三々  
 の老人を扶養せしつゝ、其の理由は老人は  
 既に社會に對して人同一人分の義務を果して  
 精神のみを再肉体的にも早晩早や後立に立左

10月 24日 H 時 記

ざる故に是等の老人に對して此の上は勤勞を  
 望むは不当なり又國家として老養育の院の如  
 き處に初まひて冷遇をあたふも又不念現たり故  
 に自ら卒死して老人優待の命を乞ひて其の範  
 を示す者なり又彼は後藤新平子、小泉策大  
 郎以舊の郵に利入をあたす模様あり